

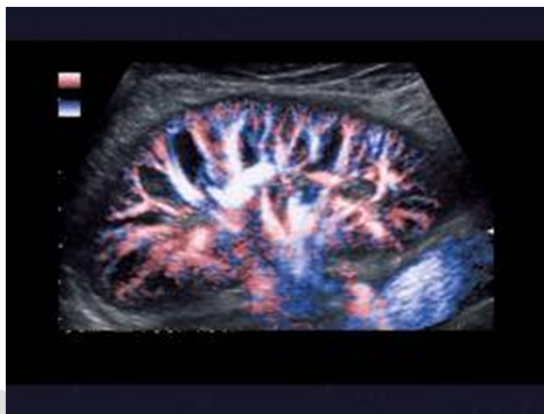
超音波診断装置 プロサウンドF75

アロカ株式会社

ALOKA
illuminate the change

超音波検査、超音波診断装置とは

- 超音波検査とは超音波(人間の耳には聞こえない周波数の高い音)を用いて体の内部を観察する検査です
- 大掛かりな設備を必要とせず、患者さまへの苦痛もほとんどない検査ですので、検診などで広く行われています
 - 安全性も高く、お腹の赤ちゃんを見る検査にも用いられています
- アロカは超音波診断装置を、世界で初めて開発・実用化しました



超音波検査における筋骨格系障害

(WRMSD) (Work-related Musculoskeletal Disorder)



- 昨今、超音波検査を行うお医者さまや検査者（ソノグラファー）の筋骨格系障害が社会的に問題となっています
- その1つの原因として、超音波検査中の不自然な体勢が挙げられます
- けれども設計上の制限から、従来の装置を使用する場合は、ソノグラファーは検査中に不自然な体勢を取らざるを得なかったのです

プロサウンドF75のデザインコンセプト

- 環境適合性と機器の存在感の調和を計ったやさしいデザインを取り入れています
 - For Dotor(ソノグラファーへ)
 - 「高性能・信頼感」を与える
 - For Patient(患者さまへ)
 - 「安心・安全」
 - For Environment(環境へ)
 - 「適合・主張しすぎない」



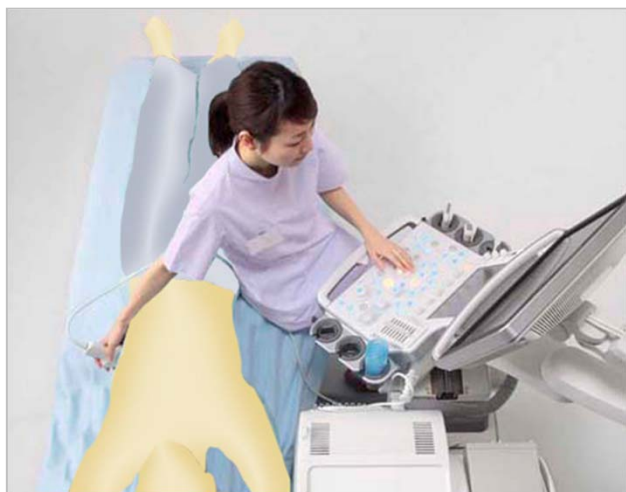
For Doctor

- ソノグラファーの様々な体勢にフィットするフレキシビリティ
- 使いやすさを追求した設計



For Doctor

- プロサウンドF75のフレキシビリティによって、検査時のソノグラファーの筋負担が軽減されることが、定量的にも証明されています*



検査風景

*弊社デザインセンターと千葉大学 人間生活工学研究室との共同研究より

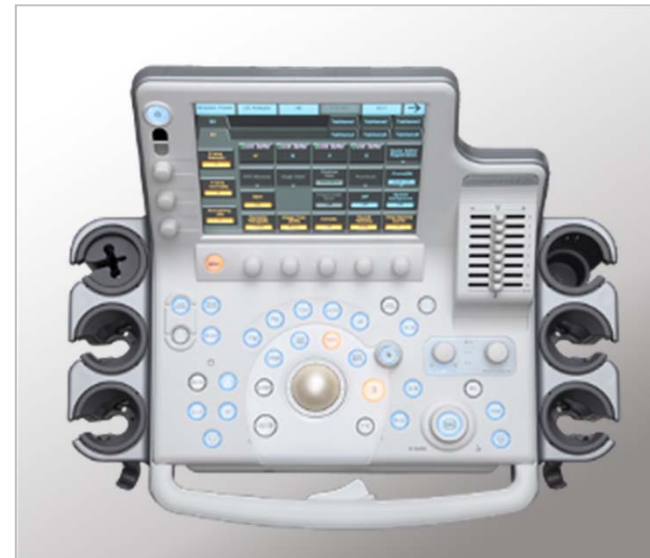
操作者が使いやすいと感じる位置に、超音波診断装置のモニター・操作パネルを調整することによって、操作時の筋負担が軽減されるという結果がでました。

For Doctor

- 装置に不慣れなソノグラファーでも、直感的に使える操作体系
- スイッチのレイアウトにもこだわり、手が届きやすく、無駄な手の動きを最小限にしています



使用頻度を考慮したスイッチレイアウト



タッチパネルの搭載によって、パネル上のスイッチを最小限に抑えています

For Patient

- 安全性を配慮した配色を取り入れ、不用意な衝突を避けられます
 - 移動時の安全性への配慮
- ↓
- 患者さまが行き交う院内でも、安心です

前方が妨げられない

モニタを低くして
固定が可能



軽い力で装置
移動が可能

For Environment

- やさしさ・清潔さを感じさせる白を基調としたカラーリングで、検査室の雰囲気にもマッチ
- 有害物質削減/廃棄考慮しています
 - RoHS, WEEE対応
- 省資源/資源効率アップを目指しています
 - 利用材料の種類の削減、軽量化による部材削減



これからのアロカ

使う方のことを考えた装置を作ること。

それはメーカーとしての使命、責任だと私たちは考えます。

これからもアロカは使う方、患者さま、環境にやさしい装置を作るために、取り組んでいきます。

今後のアロカにもご期待下さい。



ALOKA
illuminate the change